

## 「17年ぶりのゴルフ」

先日、17年ぶりにゴルフをした高野です。

我流で覚えたスキーはクセの矯正が大変だったので、ゴルフは最初からレッスンプロについて習い始めました。30年近く前のことです。

ローン嫌いの私が、ローンを組んでオーダーメイドのゴルフクラブを手にいれました。それだけ「本気」のつもりでした。

ただ、その頃の私は人生で一番苦しい時期でした。親との確執、事業承継の放棄、無謀な金融業界進出等が原因で辞めてしまいます。

「ゴルフどころではない」と自覚しながらも、それなりにお金と時間を投資していました。

まさにゴルフクラブは中途半端な私の人生、そのものでした。

そこで6年ほど前、ある方に「ゴルフクラブの捨て方」を指導してもらいます。すると「奥様はあなたがゴルフをやめることに何と言ってますか？」と……。

「家内には何も言ってません。彼女は僕のゴルフには一切関心がありませんから意見は聞かなくても大丈夫です。」

今考えれば痛い話で、当時の私はまるで奥さんの意見なんか聞くように思われていなかったのでしょう。話はゴルフクラブの処分法に終始します。ゴルフクラブとのお別れ式をやって売りに出すことに。

早速、納戸からゴルフクラブを引っ張りだし玄関に置いておきました。カバーをめくるとピカピカに磨かれたゴルフクラブは古さを感じさせませんでした。「俺を売るな」と言っているように聞こえましたが、もう決めたことだからと割り切りました。

ところが家内は「今、捨てることはないでしょ。また使うかもしれないから今は捨てないで。」と言ったのです。

驚きました。結婚以来、私のすることに一度も異を唱えなかった家内が反対したらからです。しかも翌朝、起きるとゴルフクラブは玄関から元の場所に……。結局、お別れ式をすることは出来ませんでした。

家内は、私のゴルフにかけていた思いを知っていたのでしょうか。「諦めるにはまだ早い。時間的にも経済的にも豊かになって、またやりなさい」と励ましてくれているのではないかと思いました。

改めて家内に感謝した出来事でした。そんなクラブを17年ぶりに引っ張りだしてのゴルフ・コンペ。「ほら、また使うことになったでしょ。」と妻。

伝説のアマ、中部銀次郎も通った唐津ゴルフ倶楽部へ。

皆さん、ご想像通り126打。自分史上最悪のスコア。拳句の果てには、クラブをゴルフ場に忘れて、引き返すありさま(笑)。

ゴルフ場に戻ってクラブを確認すると、「お前、あの時、俺を捨てようとしただろ」、そう言われた気がしました。